

段葛

段葛は八幡宮参道に沿って二ノ鳥居から三ノ鳥居まで続く、周りより一段高くなった全長約450メートルの歩道です。沿道に植えられた桜は通常3月下旬から4月中旬にかけて花を咲かせ、その下にはその後に見ごろを迎えるツツジが植えられています。段葛は1182年、初代鎌倉幕府将軍であり鶴岡八幡宮を創建した源頼朝(1147-1199)によって造られました。頼朝は海から八幡宮へと続く参道を造るよう命じました。このとき頼朝の妻北条政子(1156-1225)が身ごもっており、この造営は安産祈願として行われました。段葛の設計には防衛的側面があったとも言われています。かつては両側に堀があり、幅は今も八幡宮の境内に近づくにつれ狭まっている遠近法により海からの距離が長く見えるように作られて、敵を振り返りにしやすくなっています。1878年に横須賀線の線路を新たに通すため行われた一ノ鳥居と二ノ鳥居の間の部分の撤去を含め、段葛には数百年のあいだに時代により改変が加えられました。2016年の大規模改修では沿道の桜の植え替え、老朽化した石積みの修復、石灯籠の入れ替えなどが行われています。